



女子トイレに
生理用品の常備を！
高山 唯子（みづこ）



問／コロナ禍により生理の貧困が問題化した。現在、学校では子どもたちが生理用品を忘れて突然生理になってしまった時、保健室で生理用ナプキンをもらうが、その返却を求めないことと子どもたちがいざという時に安心して使えるよう女子トイレに常備することはできないか。

答／本年2学期から全学校で生理用ナプキンの返却を求めないこととした。しかし、提供は子どもたちへの理解や支援などの教育的価値から、従前どおり保健室で渡すこととした。

問／子どもたちからは、休み時間が短いことや保健室まで遠いなどの理由から「トイレ内に常備してほしい」という声が多く聞かえてくるがどうか。

答／検討した結果、今までどおり保健室での提供が適当と判断した。

問／子どもたちは生理のリズムを察知することが難しく「はっ」とした時に女子トイレにナプキンがあることで、どれだけ安心できることか。こうした子どもの声が届く社会になり、多くの学校に広がってほしいと考える。年齢等も考慮し、保健室での提供と併せて女子トイレにも常備できないか。

答／子どもたちの気持ちに寄り添って、もう一度検討し、学校内において子どもたちが安心して使えるように常備していきたい。



上越市の魅力の創出と
発信を
安田 佳世（無所属）



問／地産地消推進の店認定事業の取組状況と今後の方向性はどうか。

答／「プレミアム認定店」の新設やスタンプラリーで巡る「地産地消推進キャンペーン」の実施を予定している。市民や当市を訪れる人へPRし、地場産品の認知度向上と、地産地消の底上げを図っていきたい。

問／農業分野の魅力を更に発信してはどうか。

答／上越市には、良質な米や上越野菜、郷土料理、棚田、雪室などの誇れる魅力がある。販売促進事業や体験交流事業、SNSの活用など、効果的な情報発信とPRを進めていく。

問／メイド・イン上越推進事業の取組状況と今後の方向性をどのように考えているか。

答／コロナ禍の状況を踏まえ、インターネットショッピングサイトでの販売促進も行っている。今後は、SNSでの更なる情報発信など、消費行動の変化に対応した取組を進める。

問／観光に関する取組の状況と今後の方向性は。

答／上越市観光交流ビジョンに基づき「観光マインドの底上げ」を重要なポイントと位置付け、各種事業を進めている。来訪者の価値観の多様化が進み、旅のニーズが変化している。今後も、今ある地域資源の魅力向上と、SNSを通じた情報発信や地域の魅力を複数組み合わせるなど、見せ方にも工夫をしていきたい。



子育て支援の促進を
鈴木 めぐみ（輝）



問／上越市子育てジョイカード事業について、交付基準を緩和することで子育て世帯への家計支援を促進すべきと考えられているがどうか。

答／カード利用者と協賛企業を対象にアンケートを実施した結果、カード利用者側は、交付対象を拡充することを期待する意見があった一方で、協賛企業側は、利用頻度の高い店舗の約9割が、3人以上の世帯を対象とする現行制度の維持を望んでいる。

コロナ禍における子どもの貧困対策強化を

問／コロナ禍が継続し、ひとり親世帯の経済的困窮が拡大していると指摘されている。また、ふたり親世帯においても世帯収入が減少して経済的に困窮し、食費などの生活費が削減されているという。市独自の特別給付金が必要と考えるがどうか。

答／4月からはひとり親世帯、7月からはふたり親世帯に対して、子ども一人当たり5万円の生活支援特別給付金を支給している。引き続き、制度の周知に努める。現時点では、市独自の追加給付については考えていない。

